

【作戦 33】

花を育てるように、子どもを育てる
⇒ 一人ひとり個性豊かに成長します

私が、約20年前に
「ふわふわさんの草の根運動」をしようと思った時に
自分のモットーとして創った詩があります。

どの花も、
暖かい場所に置いて、水を十分にあげれば育つ
わけではありません。

綺麗な花を咲かせるためには、
その花に合わせて、適切な
置く環境、与える水の量、温度、日当たりなどを
考えなくてはなりません。

これは「子どもを育てる」ことにおいても
同じです。

優しい言葉がけをしていると思っても、
相手はおせっかいに思っているかもしれません。

『花を育てる』

寒い所が好きな花

暖かい所が好きな花

室内が好きな花

太陽の日差しが好きな花・・・

花に水をやりすぎると、根腐りをする。

水が足らないと枯れる。

でも、花は、自分から水を要求してこない。

育てる人が、花の状態を見て

適量の水をやったり

置き場所を考えたり・・・

子どもを育てる時も、おなじ。

自分から要求してこないから

周りの温かい目が大切。

相手の状態を良く見て

適量の援助・支援をしたり

見守っていたり・・・

人は皆、この世にたったひとりの

素晴らしい存在です。

よく見て聴いて

上手に育てよう。

言葉がけだけがストロークではありません。

ストロークの語源が「なでる」であるように
握手、ハグ、肩に手をやる、ハイタッチなど

タッチすることは、
受け取る子どもの心に
直接、誤解なく伝わります。

厳しい環境に適応してきた植物は
少々のことでは枯れないのと同様に、
いろんな困難を乗り越えてきた子どもには、
心を閉して身を守る人もいれば、
打たれ強い人もいます。

関わる人は、自分の思い込みや偏見を取り去って、
目の前に居る子どもを
ありのままに受け入れてあげましょう。

「手をさしのべる」という言葉があります。
言葉を使って理性的に対応するよりも、
さりげなく差し出した握手が、

あなたの裏面のない思いやりの心を伝えます。

子どもを理解するとは、
本人自身の成長をサポートすることです

植物は環境が変われば弱ると同様に、
転校、転居、新入学などをした子どもは、
目に見えない緊張感を持ち、
心が過敏な状態になっています。

そんな時、
「そんな弱気では駄目」とか
「もっと積極的に・・・」など、
好意的に励ますつもりで言ったことが、
子どもをますます弱らせることもあります。

「何かあったら、なんでも言ってね。」
というたった一言と優しいタッチが、
その人の心に余裕を与えることもあります。

さりげなく声をかけて、

相手が自分のペースを取り戻し動き出すまで、
暖かく見守ることが大切です。

植物にあげる水の量は、
夏場は多く、冬場は控えなければならないのと同様に
幼い頃いろんな世話をされ嬉しく思っていたことが、
10代の若者には
「ウザッタイ」「ウルセイ」関わり方になる
場合があります。

心の自律形成の時期は、
親（上司）は見守っていて、
助けを求められた時に
誠心誠意かかわってあげることが大切です。

すべての植物が暖かい所を好むのではないのと同様に
誰に対しても
“優しく” 接していれば良いではありません。

時には、

厳しく、道徳や社会ルールをしっかり伝えなくては、
多くの人々が複雑に関連し合って生活する社会には
適さないでしょう。

特に近年における一部の若者たちの乱れは、
大人たちが自信を持って指導できないことが
一因となっていると言われます。

決して「暖かい言葉」だけではなく、
子どもの成長に貢献する
的確なかかわり方が必要です。

私達は、
毎日多くの人と触れ合い、多くの経験をし、
貴重な時間を過ごしています。

果たして、
どれほど自分の対極にいる子どもを
暖かく意識して言動しているでしょうか？
子どもを従わせるのではなく、
可能性を引き出す親（上司）になりましょう。

【ちょこっと心理学：「タッチストローク」】

相手の存在を認めてする働きかけである“ストローク”の中で、体に触れる働きかけを“タッチストローク”と言い、「心のふれあい+体のふれあい」とダブルで作用する

私たち人間は、理性的な言葉を覚えるより先に、親の肌の温もりから“ストローク”をもらっている。肌の温もりは、裏面なく直接心に響き、相手の感情に働きかける。

そのために、相手が喜んだり悲しんだりして心が大きく動いている時や自分の感情を伝えたい時などに有効である。

たとえば、嬉しい時にハイタッチしたり、悲しい時にハグをすると 何倍もの肯定的ストローク“ふわふわさん®”が伝わり、心から分かり合える関係が生まれる。

その反対に、怒って叩いたり、嫌がる異性にタッチすることは、言葉より何倍もの否定的ストローク“チクチクさん”が伝わるので気を付けなくてはならない。